

# 宇都宮大学

## とちぎ高齢者共生社会を支える 異世代との協働による人材育成

連携自治体 栃木県・宇都宮市

### 地(知)の拠点として

栃木県が平成24年度に実施した調査によれば、県民が認識している地域課題のトップは「高齢化」。また、3位に入ったのが「住民同士の交流」でした。

これらの課題解決に本学のシーズでどう応えるかについて栃木県・宇都宮市と検討を重ね、自治体・マスコミ・教育機関が連携協力し、豊かな高齢社会の構築に向けて、「高齢社会の共生コミュニティ」を支える人材を育成することとしたのです。

本事業では、①異世代との対話や協働を学びの場とした全学生必修プログラムの創設、②テーマ別教養科目的推進などによる学士課程カリキュラム改革、③社会人対象の「終章コミュニティワーカー」の養成、④全教員に対して地域志向を促進するための地域志向研究等の事業を進めています。

### 教育 - 異世代 chain アゴラ での学びと高齢社会を支える 人材育成

教育プログラムの根幹は学士課程カリキュラムの改革。異世代との対話や協働の学びの場となる「異世代 chain アゴラ」を形成し、高齢者が培ってきた地域の知

(indigenous knowledge) やローカルな知 (local knowledge) を継承し、発展させ、大学の知と融合させることによって、地域の未来を見据える幅広い社会人基礎力や人間力に係わるリテラシーを核とした人づくりを進めます。

そのために、①全学生必修とする「とちぎ終章学総論」(アクティブラーニングの手法で展開) の開設や副専攻プログラム「高齢共生社会」の実施により、高齢社会のコミュニティを支える汎用性の高い人材を育成します。②テーマ別教養教育を推進し、21世紀リテラシー必修科目を創設してジェネリックスキル及び課題設定・解決のためのデザイン能力を養成します。具体的には課題解決に向けた課題発見能力、分析能力、企画立案能力、仲間と協働して具体的に実行する行動力を育てます。

### 研究 - 学生の地域を志向した 研究力を高める仕組み

「地域志向教育研究経費」によって、地域志向の教育と研究を促進します。全学的に高齢社会のコミュニティ形成や高齢・終章世代の暮らしを支える地域課題解決型の研究を推進します。さらにそれらをシラバスに反映し、様々な授業の中で栃木県全体あるいは県内の特定の地域について取りあげる機会を増やし、地域課題解決に貢

献する人材を育成します。

また、学生もこうした研究プロセスに、卒業論文・研究、修士課程、博士課程研究として参画します。年度末には学生の研究成果の公開発表会を開催して、優秀な成績をあげた学生を学長が表彰する「地域志向研究賞」を創設します。

### 社会貢献 - 終章コミュニティ ワーカーの養成

<終章>は、人生の最終章いわば後期高齢を迎える世代が、豊かに幸せに生きるために、「老い」という側面だけでなく、人生の最終章をどのように豊かに生きるのかという視点を示したものです。

本事業では、高齢者とその家族・自治会・社会福祉協議会・医院（医師）・保健師・高齢者福祉施設・デイサービス・ケアマネージャーなど、「終章世代」に係わるステークホルダーを有機的に連携させつつ、高齢社会に対応したコミュニティ形成に資することのできる人材「終章コミュニティワーカー」を養成します。

終章コミュニティワーカーは、「とちぎ終章学総論」のほか、「地域福祉とコミュニティ」、「コミュニティデザイン」等の科目を系統的に学び、120時間以上の履修をすることにより、履修証明が交付されます。

## とちぎ高齢者共生社会を支える異世代との協働による人材育成



- 栃木県の課題であると同時に日本の普遍的課題でもある高齢社会を支える人材育成を核とした事業を展開
- 大学が地域拠点となって豊かな高齢社会の構築に創造的にチャレンジし全国モデル「異世代Chainアゴラ」を創出

### 地域課題の解決及び大学改革の方法

- ▼ 全学生に向けた「異世代Chain教育」
- ▼ 学士課程カリキュラムの大幅な改革
- ▼ 「終章コミュニティワーカー」の養成
- ▼ 地域と連携した「異世代Chainアゴラ」の創出
- ▶ 高齢社会デザインのモデルケースとなり得る先進的な地域への変革

関東地方



栃木県が平成25年2月に公表した「地域課題に関する意識・行動調査／地域課題に関する取組状況調査報告書」によると、県民が課題として最も認識していることは「高齢化」であり、3番目に多かったのが「住民同士の交流」でした。本事業を申請するに当たって、本学と栃木県及び宇都宮市とで検討を重ねた結果、県内では豊かな高齢社会を構築することが最大の課題であり、こうした課題を解決する人材育成のニーズが極めて高いことを改めて確認いたしました。これらのことを踏まえ、本事業は、栃木県及び宇都宮市と連携・協力して、高齢社会を見据えたコミュニティ形成を支える人材を養成する事業を展開していきます。



栃木県  
保健福祉部保健福祉課企画指導担当係長  
**星野 典子**

宇都宮大学におきまして、全ての学生さんを対象に高齢社会を支える人材育成を核とした事業が実施されますことは、在宅医療体制づくりを担当する者として大変強く思っております。本事業の一連の取組を通して、学生さんはもとより、県民の皆様にも「生き方」、そして「逝き方」を考える機運を醸成していただき、一人ひとりが自分らしい笑顔あふれる「終章」のあり方を見出す好機となりますことを期待しております。



教育学部（総合人間形成課程）3年  
**今野 文裕**

「超高齢社会」「終章」と言われても今の私たちにとっては遠い世界のことのように聞こえます。学生同士では話題にすらならないのが現状です。しかし、超高齢社会、人口減少社会を生きしていく私たちの世代には向き合っていかなければならない必要な知識であり、スキルであると感じています。大学では、どんな未来社会がくるのか考えながら、学んでいきたいと思っています。

# 高崎商科大学

## 「地と知から（価）値」を創出する地域密着型大学を目指して

連携自治体 高崎市・富岡市

### 地(知)の拠点として

本取り組みは、高崎市・富岡市を中心とした上信電鉄沿線自治体における「観光まちづくり」の推進及びそのための「人材づくり」に自治体と組織的に連携して取り組む事業です。コミュニティ・パートナーシップ・センター(CPC)を新たに設立し、地域課題を踏まえて地域を志向した教育・研究・社会貢献を大学全体で推進します。本学は社会的責任を負う大学への転換を進め、教育改善と同時に地域課題に取り組む問題解決型の学習方法を推進します。また、教育プログラムと教員・学生・職員等が行う地域貢献活動との関連を明確にし、強固にすることを目指します。具体的には、大学の知を地域へ提供することはもちろんのこと、地域の知を大学経由で地域に還元・活用するハブ的役割を目標としています。

### 教育 - 地域課題を発見し、解決できる人材育成

教育面では地域問題を解決できる人材輩出を目標に掲げ、地域関連科目の共通必修化を含めたカリキュラム改訂を強力に進めます。具体的には、地域に関連した学びを通常授業に含ませ、様々な分野の科目と地域の学びを結びつけま

す。また、群馬の歴史や文化を学ぶ科目を必修科目として導入し、全ての学生に対して地域に対する知識を提供します。

これまでの授業の主流である座学から、座学（理論）とコミュニティ活動（実践）とを融合させた科目への転換も併せて推進します。授業内においてはグループワークやフィールドワークを多く取り入れたアクティブラーニングを積極的に導入し、主体性を養う教育へと改革を行います。

人材育成においては、キャリア教育の充実も並行して推進します。既に1年次の必修科目として「キャリアデザインⅠ」を開講していますが、それに加え2年次、3年次の必修科目「キャリアデザインⅡ・Ⅲ」の設置も進め、地域課題を発見、解決できる人材育成を推進します。

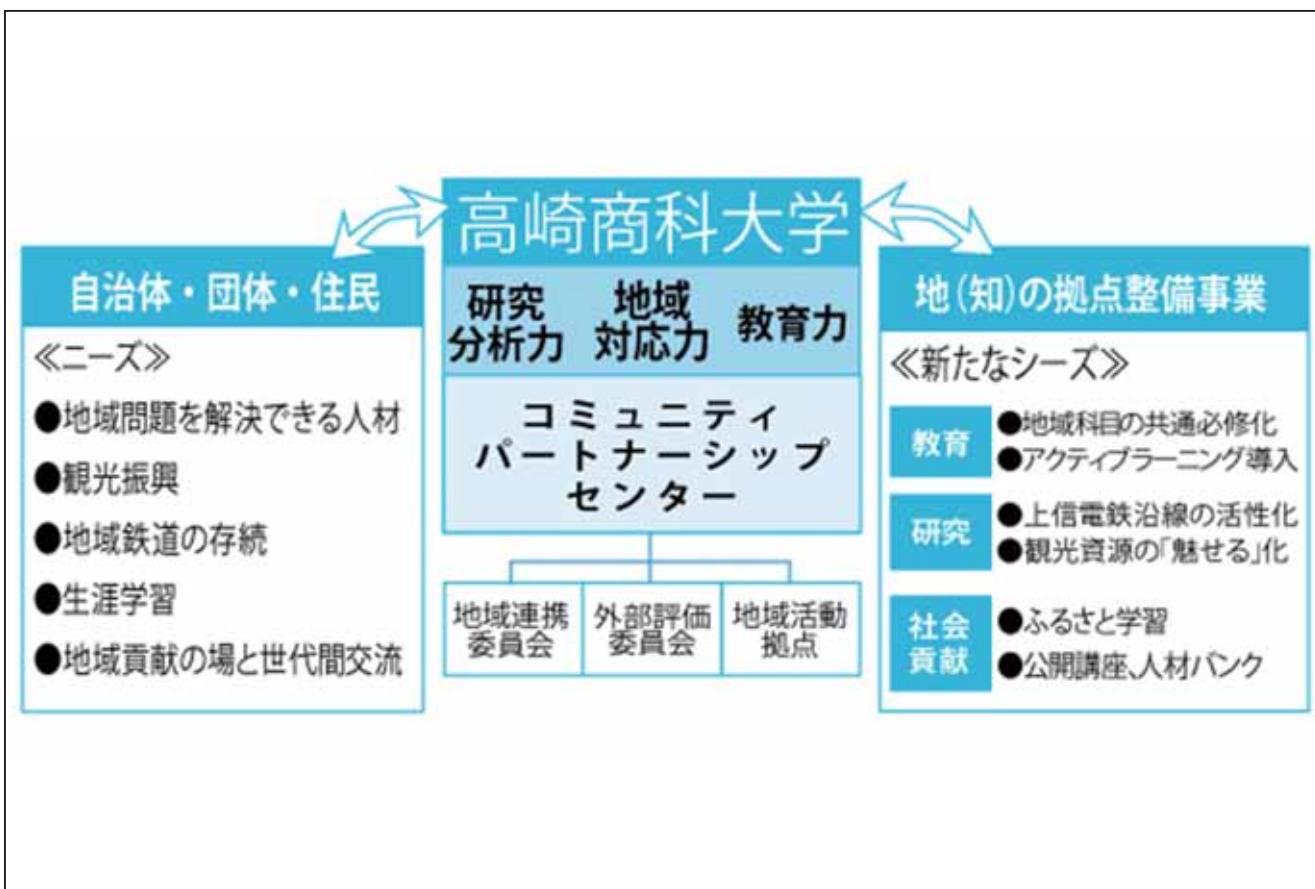
### 研究 - 地域志向教育研究費制度による地域研究の活性化

研究面では「地域志向教育研究費制度」を平成25年度中に導入し、教員による当該地域の観光まちづくりに関する調査・研究を推進します。教員の様々な専門分野と絡めて地域研究を行うことにより、多角的に課題を分析し、様々な視点からの課題解決案を提案することが可能となります。今年度は「ハイウェイオアシス（ららん

藤岡）の機能と地域交流」「地域鉄道（上信電鉄）の再生と観光振興」「コミュニティサイクルによる観光ルートの創造」など5件の研究に着手します。研究成果については、翌年度に成果発表会を開催し、地域ニーズと課題について共有します。次年度には研究件数を増加し、地域に対するアプローチを更に強化します。

### 社会貢献 - 次世代リーダーの育成と人材バンクシステムの構築

社会貢献面では、従来より取り組んできた「石碑の路再生プロジェクト」において観光マップの作成を行う等、プロジェクトを更に発展・充実させる他「富岡手づくり市の運営」「上信電鉄観光列車運行協力」などの活動を継続、地元の観光まちづくりを推進します。また、小・中学校への学習・部活動支援をはじめ、児童・生徒の郷土への愛着心を育むふるさと学習を拡大し、地域における次世代リーダーの育成を目標とします。地域のニーズとしては「地域貢献の機会提供」、「世代間交流」等があります。これらを解決すべく、「大学の知」のみならず「地域の知」を有効活用した公開講座、コミュニティ活動など、双方向マッチングが可能な人材バンクシステムを立ち上げます。



関東地方



①上信電鉄沿線地域には、世界遺産登録を目指す富岡製糸場、荒船風穴をはじめ、富岡市の妙義山、高崎市の百衣観音、多胡碑、甘楽町の城下町小幡等、多数の観光資源が存在します。これらの観光資源と上信電鉄の利用を結びつける仕組みの構築が喫緊の課題と言えます。

②商業都市高崎市としては、観光による交流人口の増加及び市街地中心部におけるにぎわいの創出と、自然歩道の歴史・文化的資源の拡充・活用が課題であり、観光資源としての「見える化」「魅せる化」を進める必要があります。

③富岡市は世界遺産候補を活かしたまちづくりによる交流人口の増加及び上信電鉄を活かしたまちづくりが重要課題と言えます。



群馬県富岡市世界遺産まちづくり部まちづくり課  
課長補佐兼係長  
**加藤 安明**

この事業の実施により地域が抱える様々な課題を解決する多様なプログラムが展開されることで、まちが活性化されることを期待しています。特に、まちの活性化には、「若者」ならではのアイデアや彼らが持つ行動力、更に「ヨソモノ」としての偏りのない視点が不可欠です。学生が主体的に地域の中に飛び出し、自分の目で、肌で地域の課題を感じ、そこに生活する人々との繋がりを大切にしていただきたいと思います。



商学部（教職課程履修者）  
第4学年  
**松田 瑞美**

色々な地域連携活動を行う中、私は「石碑の路再生プロジェクト」で地域の人々の業績を知り、「富岡まちなか手づくり市」への参加で郷土愛を学びました。「高崎市立南八幡中学校の文化祭支援」ではそれらの経験を生かして「ふるさとを育てる力」を育成するという大きな活動に携わり、地域貢献の大切さを強く感じました。今後も地域と連携した活動を続ける中で、地域志向の学問を学び、研究し、伝えていく力を身に着けたいです。

# 東京国際大学

## 「小江戸まちおこし」グローカル人財育成 のための地域連携型教育研究拠点づくり

連携自治体 川越市

### 地(知)の拠点として

本学の取り組みの目的は、地域おこしの担い手となる人財を育成するために地域志向型の教育研究体制を整備・充実することにあります。連携先の地域は埼玉県川越市であり、大学と行政および民間の3者が連携・協働することにより、地域の課題に取り組める指導的「人財」の育成を目標として、教育・研究・社会貢献の3つの活動を有機的に組み立てていきます。

これらの3つの活動を主体的・自律的に実施するネットワーク組織を作り、地域貢献活動を軸とした教育および研究活動を実施する中で、大学・自治体・民間のいずれもが相互に刺激しあい、それぞれの課題の解決・目標の達成・活動の充実などにつなげていくことを狙いとしています。

### 教育 - 地域連携科目群を中心 に、地域志向教育研究体制 を充実

教育面では、「小江戸かわごえ」グローカル人財育成を促進するために、地域を志向し、地域と連携した教育体制を組み立てます。

第一に、大学全体のカリキュラムの中に、地域連携教育分野を新設し、そこにCPW (Community Project Workshop) 科目群を設け、一方で主体的な学修方法を取

り入れた講義を基礎とした授業と、他方でPBL (Project-Based Learning) 型の授業を実施します。

第二に、既存の科目の中から、地域をテーマとし、地域志向的な内容に関連した科目を選び、それらをCPW指定科目として選定します。

第三に、全ての授業科目の中で地域を志向した教育を目指します。このように教育面で3段階の地域志向的な学修の仕組みを構築します。

特に地域連携教育分野の科目では、いずれもアクティブラーニング方式を取り入れ、プロジェクト科目ではPBL方式の学修により学生の積極的な学びの実現を進めています。

### 研究 - 川越まちおこしワー クショップを基盤に、教育・ 研究・社会貢献を一体化

地域志向的な研究活動の目標を「大学・自治体・民間の3者間で主体的・自律的に活動するネットワーク作り」に置き、そのため「川越まちおこしワークショップ (KCD: Kawagoe Community Design Workshop)」を基盤とした広義の研究活動を推進します。

その下で、学術的な研究組織として学内に「地域連携研究会」を設置します。

また研究成果を地域に広く伝えるために行政および民間の関係者と大学の教職員及び学生が集ま

り、意見交換・協議等を行う場として、「地域連携ミーティング」を開催します。

これらにより、地域の課題解決などに向けた研究活動を充実し、教育と社会貢献につなげていきます。

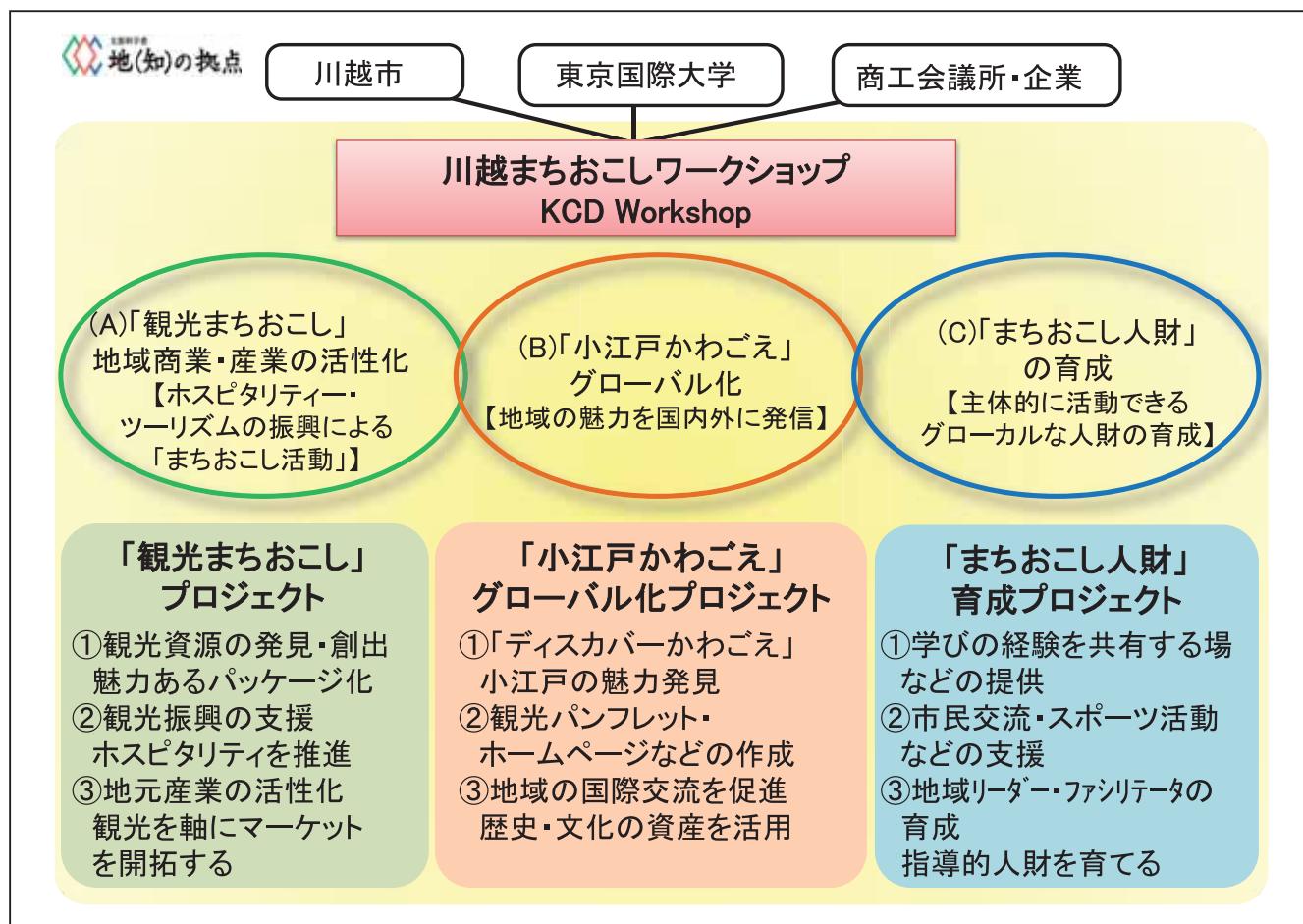
### 社会貢献 - 地域おこしの実践 的なプロジェクトA～Cを 実施し地域社会の自立化を 支援

次の3つのプロジェクトを学生が主体的に取り組むことを目指しつつ実施することにより、地域のニーズそのものに対応し、課題解決のための具体的な活動を行なえるようにします。

プロジェクトAでは、「観光まちおこし」によって、地域商業・産業・経済の活性化を図ることを目的にしています。

プロジェクトBでは、「小江戸かわごえ」グローバル化の推進を目的として、川越の魅力を国内外に発信し、地域内での国際交流の促進を図ります。

そしてプロジェクトCでは、地域貢献活動（子どもの学習支援、スポーツ支援、地元企業支援等の活動など）を通して、地域の「まちおこし」を担い、主体的に活動できるグローカル人財を育成することを目指します。



関東地方



川越市における地域の重要な課題として、私たちは次の3つを取り上げます。(1) 観光や商業の振興をテコにして産業・経済のさらなる活性化を図ること、(2) 地域の国際化を推進するために歴史・文化的な資産や知財の魅力を内外に発信し、地域の国際交流を推進すること、そして(3) 地域おこしを担う「グローカル人財」を育成する仕組みを作ることです。

以上の地域の課題解決に向け、これまで大学と自治体・商工会議所などが実施してきた連携・協力の体制の強化を、大学の地域志向的な教育研究体制の充実および「川越まちおこしワークショップ」の実施などで図ります。



川越市  
川越市長

**川合 善明**

このたび、本市が東京国際大学の「地(知)の拠点整備事業」に協力し、実施できることは本市の発展に重要なことと存じます。本市は大学がこれまで実施してきた現代GPの取組みにおいても、地域の国際化・観光の推進・教育福祉支援・文化スポーツ等で協働関係を深め、2007年には包括連携協定を結ぶに至りました。今後も、大学が未来を結ぶ人材(人財)を育て、眞の「地(知)の拠点」となることを期待しております。



人間社会学部人間スポーツ学科 3年生  
**牧野 美都紀**

私は、地域志向型プロジェクトとして川越市スポーツイベントへの支援活動にこの秋に参加し、とても良い経験ができました。活動に入る前に、担当の先生から事前研修や地域スポーツの意義などについて指導を受け、自分たちが地域と連携した活動を通じてどのような貢献ができるか、また自分がさらにどんな学びをしていったらいいかを実践を通して考えることができました。今後の学生生活に活かしていきたいと思います。

# 千葉大学

## クリエイティブ・コミュニティ創成 拠点・千葉大学

連携自治体 千葉県・千葉市・松戸市・柏市・野田市

### 地(知)の拠点として

本事業は、地域課題が山積している大都市郊外の住宅地コミュニティを対象とし、そこにある大学として、自治体（千葉県、千葉市、松戸市、柏市、野田市）との強い連携の下、全学をあげて地域志向の教育・研究と社会貢献に向け様々な地域課題、社会問題に、総合的・包括的に取り組む拠点づくりを目的としています。

これらの取組を推進するため、専任教員と各学部等の兼任教員からなるコミュニティ再生・ケアセンターを設置しました。また、重点的に取り組むモデル地区には、廃校となった小学校の一部を千葉市から借り受け、サテライトキャンパスを新設し、公開講座や地域で活動する団体等と連携により地域課題に向けた取組を推進します。

### 教育・必修化・副専攻・フィールド学習の展開

普遍教育（教養教育）課程においては、「社会の一員として地域と関わりながら課題を主体的に設定し解決するマインドをもつ人材」を育成するために、平成27年度から、全学生が受講する地域に関する必修科目群「地域と暮らし・環境（仮称）」を開始しま

す。この必修科目群の他に選択科目群を合わせて合計50科目を平成29年度までに開講します。これは、普遍教育センターと連携し、コミュニティ再生・ケアセンターが教員集団となり運営するものです。また、平成26年度からは、先がけてフィールドスタディや地域ボランティアを取り入れた科目を新設します。

専門教育課程においては、「地域の再生を社会の重要課題として意識し、地域サービスに関わる多様な専門能力を有する人材」を育成するために、平成27年度から9学部のすべてで、地域に関する科目を20単位程度取得することで、「コミュニティ再生・ケア学（仮称）」の履修証明を授与する副専攻プログラムを設置します。

### 研究 - 学際的な地域貢献型研究の展開

住宅地コミュニティにあるさまざまな未解決課題を「超高齢化領域」「住宅・コミュニティ領域（住まい暮らし系、コミュニティ系、地域文化系）」「人権・男女共同参画領域」「基盤・空間領域（基盤空間系、地域経済系）」の4つの領域にフレームワーク化し、学部等の専門領域を超え、学際的に対応します。

研究課題は、自治体と意見交換を行いながら、地域ニーズにあつ

た取組体制を構築しています。また、地域のNPO等の団体や市民と協力し、具体的な地域や現場に入り、地域課題の本質を理解し、実践的な研究を進めます。

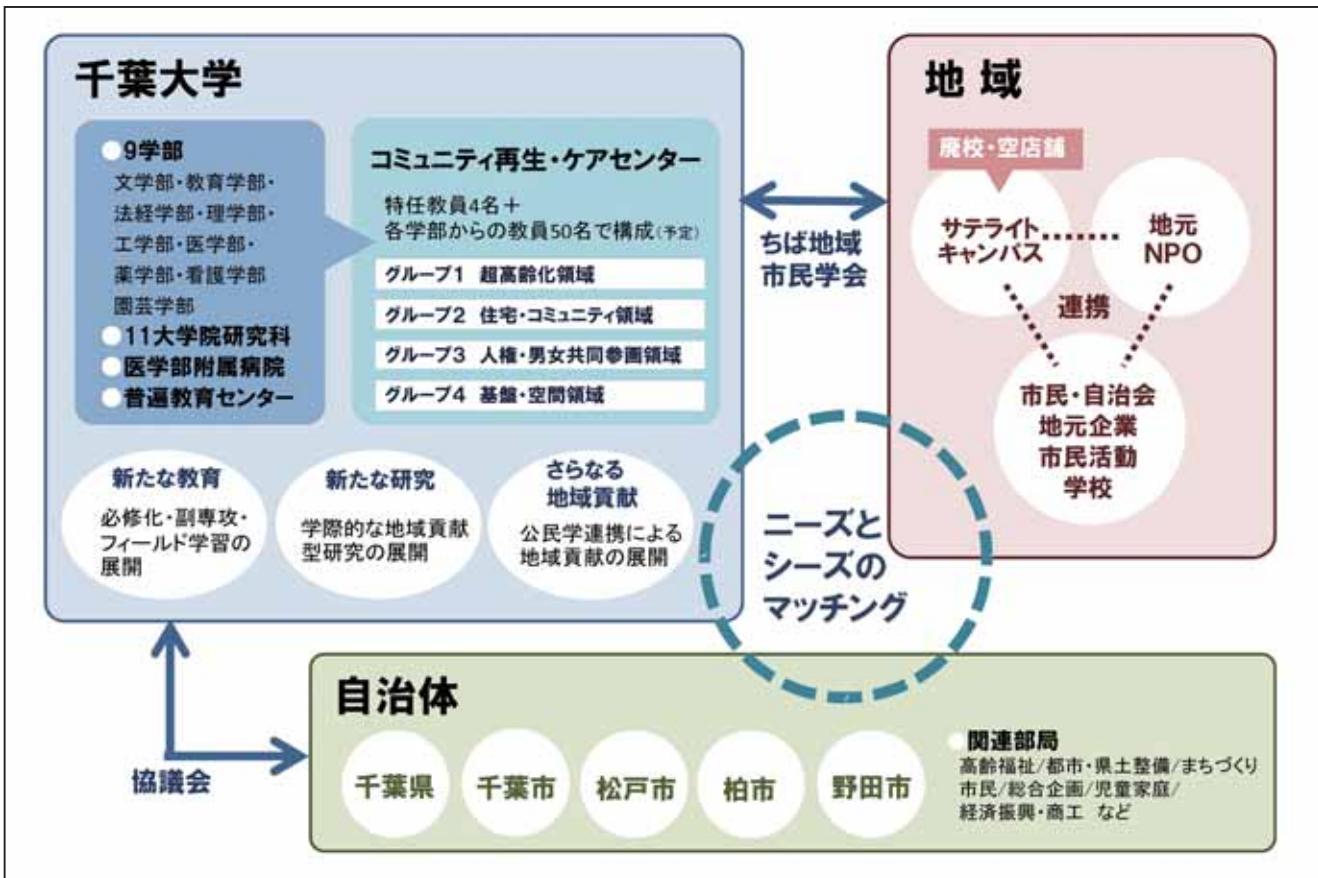
これらの研究は全学部の教員により学際的な研究テーマで組み立てられ、その成果は、教育や社会貢献に役立てられます。

### 社会貢献 - 公民学連携による地域貢献活動の展開

住宅地コミュニティの課題解決の実践研究を社会貢献につなげるとともに、市民やNPO等と連携しながら具体的なプロジェクトを実施します。研究成果は公開講座・セミナーを行うことで、市民に学習の機会をつくります。

研究成果は、柏市すでに実施している「カレッジリンク・プログラム」を千葉市や松戸市へも展開し、活かされます。カレッジリンク・プログラムは、市民が千葉大学の授業を受けられるリカレント教育で、修了生が地域で様々な活動を展開するようになっています。

また、研究・教育成果を展示する「街の道具箱」、サテライトキャンパスにおける市民やNPO等とのワークショップ等の実施により、地域を元気にする取組を推進していきます。



- 地域の課題 住宅コミュニティには以下のように、様々な課題が山積しています。
  - 超高齢化領域：買物難民、医療体制対応、認知症、孤立死増加など
  - 住宅・コミュニティ領域：空家、中古住宅流通停滞、文化活動未成熟、外国人融和など
  - 人権・男女共同参画領域：メンタルケア、男女共同参画など
  - 基盤・空間領域：商店街衰退、地域防災、公共交通など
- 連携自治体との協力体制 千葉県、千葉市、松戸市、柏市、野田市とともに地域課題と、地域ニーズにあった教育研究のあり方についての意見交換を協議会で実施します。また、協議会は全体協議会と研究領域ごとの分科会があります。



千葉市  
千葉市政策企画課主任主事  
**坂入 修一**

本市と千葉大学は、平成22年2月に包括的な連携に関する協定を締結し、様々な分野で連携を進めているところですが、COC事業により、この連携を更に発展できればと考えています。本市としましても、取組みを進めさせていただくにあたり、関係課との連携の中で、一つでも多くの地域課題の解決につなげていきたいと思います。



工学部3年  
**竹村 涼**

私は、地域に出て社会貢献をしたいと考えていたので、座学だけではなくフィールドワークも行う科目の新設は、嬉しいことだと感じました。また、住宅地コミュニティが抱える課題群には、「基盤・空間領域」の取組が増えるといいと思います。このCOC事業で得られた知識や経験は、地域貢献の第一歩になると共に、社会に出てからも活かせるのではないかと思います。より地域社会に密着した千葉大学となることを望んでいます。